

都市幼児の健康・安全行動の形成における 母子相互作用に関する研究

齊藤 歎 能 (横浜国立大学)

研究の背景および目的

近年、文明の進歩によって、幼児の生活環境は以前とは大きく変化しているが、それに伴って都市幼児に疲れやすい、食欲不振、風邪をひきやすいなどの症状を訴えるものが増加し、身体の形態発育の向上に比較して、体力の相対的低下がみられるとの指摘がなされている。これらの現象は家庭における母親の養育態度と密接な関係にあることは否定できず、今後の幼児期における健康増進など保健指導上重要な問題として考えられる。

過去2年間の研究においては、幼児期の発達課題としての生活習慣、運動機能、健康度、遊び、環境、事故災害などを指標として、都市幼児の健康と安全に関する行動形式における母子相互作用についての検討を行った。その研究内容としては、①母子相互作用に関する文献的研究、②健康・安全行動の形成における母子相互作用の実態調査、③健康・安全行動の形成に関する一般的傾向に関する調査研究、④健康行動の形成に関する因子の多面的分析、⑤健康行動の形成に幼児の年齢が母親に及ぼす影響について、⑥健康・安全状態の優良及び不良群に対する心理検査・母親面接法による分析、⑦安全行動に関する母親の態度について、7課題の研究を行ったが、本年度は、「3才児健康診査における指導内容と母子相互作用の関係について」「健康安全行動場面での母子相互作用における幼児のセルフコントロール」の2課題についての研究を行ったので報告をする。

3才児健康診査における指導内容 と母子相互作用の関係について

はじめに

幼児の健康は多くの因子の影響を受けており、特に幼児自身のもつ特性に加えて、養育条件が与える影響は大きいといわれている。幼児の養育は

主として母親によって行なわれることから母親もっている健康に関する意識や健康についての知識が養育態度の基本的な要因となる。今回は、3才児健康診査における指導内容と母子相互作用の関係を捉えるために、東京都、横浜市、川崎市の都市保健所にアンケート調査を実施したので、その結果について報告をする。

研究対象及び方法

調査の対象は、東京都、横浜市、川崎市の保健所の保健婦を対象に、各保健所1枚の回答を求めた。回収枚数は合計78枚である。本調査は3才児健康診査における母子相互作用に関する指導についての調査であり、その調査内容として、○基本的健康生活習慣の指導について10項目、○健康増進・疾病についての指導について5項目、○事故防止・安全指導について5項目、○指導の実施について11項目を作成し、回答を求めたものである。

結果及び考察

基本的健康生活習慣についての結果をみると、衣服の着脱、就寝、歯みがきについての指導は比較的よく行われているが、外出後のうがいの指導はほとんど行なわれていず、排泄に関しては夜尿についての指導だけが重点的に行われている傾向にある。また、衣服の着脱については着る物の形態について、就寝については家族との生活時間との関連について、歯みがきはみがいたことを毎回確認することなど、いわゆる母子相互作用という観点からの指導ではなく、方法に関する一般的指導が中心になっている傾向がみられる。食事についての指導については比較的よく行われている。特に、少食、むらぐい子ども遊びとの関連で指導をしているが、これらを改善するために必要な遊びの実践については十分な指導がなされておらず、むしろ、間食を改善するなどの指導が多く

みられる。

健康増進についての指導は非常によく行われており、保健婦の関心が非常に高いことがうかがわれる。特に、遊びについての指導では、戸外遊び、運動遊び、集団遊びの必要性について指導し、さらに親子が一緒に遊ぶことによって母子関係の結びつきを強くすることを強調している。

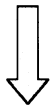
事故防止および安全指導の面では、積極的な指導はなされていない。一般的には、具体的な場面指導や事故防止に関する具体的な指導は欠除し、一般的な概念指導に終始している。特に、交通安全についての指導は少なく、基本的な指導に終わっている場合が多い。今後は幼児の事故防止について積極的な指導を行い、母子関係を密にして働きかけることが必要である。

保健所における3才児健康診査においては、保健婦は必要に応じて個別指導を行っているが、その他の場合はパンフレット、本などの印刷物を配布して指導を行なっている。しかし、指導の効性からみると、集団による母親同志の話し合いや保健婦による母と子のふれあいの必要性を強調して、母と子の結びつきを一層強くしていくことが重要となる。

ま と め

保健所における幼児の健康・安全行動の形成に関する指導では、母親が模範を示すとか、子どもにやる気を起こさせるといった指導が中心で、それぞれの項目において一般論的な指導に終始している。今後の指導においては、基本的習慣の自立、食行動、健康増進など、特に、安全指導においては子どもの発達に応じ、母子相互作用がいかに、子どもの発達に重要であるかを示す、具体的な方法を、また、事故防止においては点検や整頓など管理面のみを強調するのではなく、母親が子どもに積極的に働きかけて事故防止をはかるよう指導すべきである。

今回の研究を通してみると、母親が積極的な行動をとっている場合は、その子どもは健康・安全面で優良な状態にあることがわかったので、あらゆる機会を通して積極的に母親が子どもに対して働きかけるように指導することが必要である。特に、保健所における保健婦の指導では、母子相互作用の重要性を指摘した指導と、母と子のあり方の具体的な指導を進めていくことが必要であるように思われる。今回の研究を基に、3才児健康診査の指針となる資料を今後作成したいものと思っている。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究の背景および目的

近年、文明の進歩によって、幼児の生活環境は以前とは大きく変化しているが、それに伴って都市幼児に疲れやすい、食欲不振、風邪をひきやすいなどの症状を訴えるものが増加し、身体の形態発育の向上に比較して、体力の相対的低下がみられるとの指摘がなされている。これらの現象は家庭における母親の養育態度と密接な関係にあることは否定できず、今後の幼児期における健康増進など保健指導上重要な問題として考えられる。

過去2年間の研究においては、幼児期の発達課題としての生活習慣、運動機能、健康度、遊び、環境、事故災害などを指標として、都市幼児の健康と安全に関する行動形式における母子相互作用についての検討を行った。その研究内容としては、母子相互作用に関する文献的研究、健康・安全行動の形成における母子相互作用の実態調査、健康・安全行動の形成に関する一般的傾向に関する調査研究、健康行動の形成に関する因子の多面的分析、健康行動の形成に幼児の年齢が母親に及ぼす影響について、健康・安全状態の優良及び不良群に対する心理検責・母親面接法による分析、安全行動に関する母親の態度について、7課題の研究を行ったが、本年度は、「3才児健康診査における指導内容と母子相互作用の関係について」「健康安全行動場面での母子相互作用における幼児のセルフコントロール」の2課題についての研究を行ったので報告をする。